2023.4.22. ミニ講義

「ブラジルの首都はどこ」をめぐって

西山　佑司

（慶應義塾大学名誉教授）

日本人が間違いやすい英語の例は昔からいろいろ指摘されていますが、(1)の英訳を(2)とする誤りはその中でも横綱クラスのものでしょう。

(1) ブラジルの首都はどこですか

(2) Where is the capital of Brazil?

(3) What is the capital of Brazil?

通常、(1)の正しい英訳は(3)である、とされています。ところが、(1)は曖昧であり、そのひとつの意味の英訳は(3)が正しいのですが、他の意味の英訳なら(2)が正しいのです。気付かれにくいのですが、(1)と同様の曖昧性は次の文にも見られます。

(4) 太郎はブラジルの首都に関心がある。

(5) 花子の嫌いな食べ物がある。

(6) 田中の意見は党の意見だ。

これらの文はどうして曖昧になるのでしょうか。本講義では、下線部の名詞句が文中で果たす意味機能を手掛かりに、この問題を考察し、単純に思われる現象の背後に、言語学的に興味深い原理が隠されていることを紹介してみたいと思います。

,